

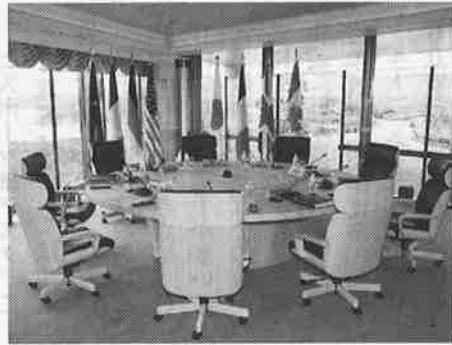
## MICE最前線

放送サービスセンター

(SINCE 1964)

伊勢志摩サミットの同時通訳システム運用を担当  
創業52年の歴史を繋ぐ若手スタッフの成長に期待

主要7カ国首脳とEUの代表2名が参加して、去る5月26・27日に開催されたG7伊勢志摩サミット首脳会合。そこでは「G7伊勢志摩経済イニシアティブ」が合意され、世界経済の下方リスクに対してG7が協力して世界経済を牽引する



G7伊勢志摩サミット首脳会合が開かれた会場(外務省HPより)

明確な姿勢が示された。株式会社放送サービスセンターは、その首脳会合を始め、付随して開催された数々の閣僚級会議などの同時通訳システムの企画運用を担当。併せて、27日夕方に急遽行われたオバマ米国大統領の広島での歴史的演

説の同時通訳システムオペレーションも、準備期間が限られているなか同社が担当、見事成功を納めた。今回のメインイベントとなった首脳会合のシステム企画運用のチーフの大役を務めたのは、入社11年目の南崎康貴取締役。

「サミット首脳会合のシステム運用は初めての経験でしたが、周りのスタッフや関係者の方々の緊密なチームワークのおかげで、ひとつのトラブルもなく成功裏に終わることができました」と、感慨を話している。

同社の運用実績一覧には、過去3回すべての東京サミット、九州・沖縄サミット、北海道洞爺湖サミット他、政府、学術研究、経済産業界、マスコミや教育文化、スポーツ等、著名会議・イベントの数々が名を連ねる。これらの輝かしい実績を次の時代へと繋げていくためには、若手スタッフの育

成と成長が不可欠。同社では、毎年3〜4名の新卒技術スタッフの採用を継続。新人もアシスタントとして参加させ、国際会議の濃密な緊張感を体験させている。

音響・映像・ITを駆使した  
トータルコミュニケーションシステムの素

近年、国際イベント・コンベンションを総称するMICEの促進・開催は、経済効果に加え、イノベーションやビジネスチャンスの創出、国や都市による情報発信、ブランド力強化に貢献する、グローバル化時代の新たな成長戦略として期待されている。中でも国際会議は外交・国際交流には不可欠。この分野の対応力はいわば「ソフトパワー」として、官民で充実することが求められている。

1964年7月、前回の東京オリンピック開催の年に設立された同社は、52周年の現在、東京国際フォーラム、パシフィコ横浜、経団連会館、国立京都国際会館等、日本を代表する国際会議施設での設備システム

運用や機器レンタル契約の他、ホテルオークラ東京を始め数多くの有名ホテルでの常駐運用でも長く着実な実績を持つ。まさに、日本のMICE事業の歴史をリードしてきた企業といえる。

「これまで52年に渡る「專業集中」の歴史を糧に、今後も同時通訳システム運用を柱に、音響・映像・ITを駆使したトータルコミュニケーションシステムを拓き、日本のMICE事業の発展に貢献したい」と、一般社団法人日本コンベンション協会の理事も務める南崎取締役は語る。

その視線は、2020年東京オリンピック・パラリンピックへの貢献も見据える。

## 【会社データ】

本社 東京都新宿区本塩町  
9 光丘四合ビル

☎03-3355713071

設立 1964年7月

事業内容 ㈱ホテル、国際会議場等、音響等設備常駐運用、同時通訳システム運用、イベント音響

http://www.hoso.co.jp